

シグマ研究委員会核データ専門部会
ガンマ線生成核データ W. G. 昭和 58 年度第 1 回議事録

日 時 昭和 58 年 7 月 8 日 (金) 13:30 ~ 17:30
場 所 原研本部役員会議室
出席者 水本, 五十嵐 (原研), 川合 (将) (NAIG), 山越 (船研), 井頭, 播磨,
北沢 (東工大)
オブザーバー: 山室 (NAIG)

配布資料

- (1) ガンマ線生成断面積評価に関する報告書のフォーマット (案) (北沢)

議 事

- (1) ガンマ線生成断面積評価に関する報告書の内容について打ち合わせを行った。
- (2) 水本氏から ORNL への出張報告を聞いた。

ORNL の $D_R \cdot F_u$ が, 今迄無視してきた低エネルギー・ガンマ線を考慮し, TNG を用いて C, Ca, Fe, Cu, Pb のガンマ線生成断面積評価を行っていること, また, $E_n \geq 12$ MeV において, Fe (n, γ) 断面積に対する Chapman 達の実験データが GROGI の計算結果よりもかなり大きい, これについて F_u は, E_n が高い方で実験値と計算値が一致しないのは, 中性子の試料中における多重散乱の効果を考慮していないためであろうと述べているということである。